

虹の架橋

今月の題字 高瀬響太くん

(みどり市大間々町)

第4区お囃子保存会の会員で皆から愛される高校生。394年目を迎えた今年の大間々祇園祭の伝統行事では山車巡行の歴代最年少指揮者として活躍し、注目と称賛を浴びました。

ながめで「おわら風の盆」

哀調を帯びた胡弓の音色に合わせ、越中おわら節と編笠を深くかぶって情緒溢れる踊りを繰りひろげる「おわら風の盆」は、全国から二十万人以上もの観光客が訪れる日本有数のお祭りです。「風の盆」は今から約三百年前、立春から数えて二十日に農作物が風水害に遭わないように、風を鎮めるための祈りを込めて祭を行ったのが起源とされています。

今回ながめ余興場が公演する「聞名寺風の盆講中・越中八尾おわら道場」は、おわら風の盆の歴史と伝統を守り続けている団体。女踊り、男踊り、唄い手、三味線、胡弓、太鼓など約二十名が出演します。本場の雰囲気そのまま「ながめ余興場」で再現し、公演終了後は余興場の庭でも越中おわら節を唄い、優雅な踊りを披露します。



ながめDEおわら風の盆
9月9日(土)第1部15時半開演
第2部19時開演
前売券1,500円 当日券2,000円
前売券は、足利屋洋品店、さくらもーる・アスク、小屋建築設計事務所、井筒屋支店、シイナ。
お問合せは…0277-73-1212足利屋

世界一小さな 定利屋 トイレ美術館

今月の絵《337》
趙国明さん『高原牧場』



今から二十四年前の春、中国人画家・趙国明さんの絵画展がさくらもーるのセンターコートで開催されて話題になりました。その時に譲っていたのが『高原牧場』と題する絵でした。のどかな牧場の夕暮れの風景の中で草笛を吹く少年のと牛たちの姿がとても印象的です。趙国明さんは一九六二年生まれ。四歳から絵の勉強をはじめ、中国国立師範大学芸術課程を修了。世界各地で個展を開き、フランスのルサロン国際展でも入選を果たしています。上海とロサンゼルスと前橋にもアトリエを持っていて、上海とロサンゼルスと前橋にもアトリエを持っている趙国明さんと、いつかまたお会いしたいと思っています。

靖ちゃん日記

令和五年八月三日(木)
大間々祇園最終日。猛暑の中、暴風雨のハプニングもあったが、通常開催の祭が幕を下ろした。初日の夜宮、二日目の本祭、三日目の手打ち式、おれ参りの山車巡行まで、二日目の夜宮から七丁目の赤城駅までの一、八キロを浴衣や法被・慣れない草履で何回も歩いた。最後のおれ参り巡行では、お囃子保存会のSちゃんの新参りといひ松崎ファミリー三代が山車に乗って太鼓を叩いた。二丁目から四丁目までお囃子九曲と娘と孫と三人並んで思いきり叩いた。皆が写真撮ってくれた。自分の葬式の時にはスライドショーでこの動画を使おうように「葬式用ファイル」に保存した。SちゃんことO島慎ちゃんか「やっちゃんか死んだらお囃子葬にする」と言った。「おもしろい葬」だと思った。棺桶には、三途の川を渡る杖がはやく太鼓のバチを入れ、閻魔大王の前で叩けばバチは当たらない。

抑留の手記は色褪せ彼岸花
十五年前の終戦記念日の夜、古い書類の中から、父のシベリア抑留の思い出を記した便箋十枚の手記と軍服姿の写真を発見しました。手記には「極寒の地で栄養失調の体で強制労働を強いられ、レンガ工場へ行くための舟が転覆して半数以上の二十四名が犠牲になった」、「空しくシベリアの川底に沈んだ戦友を思うとき、断腸の思いだった。復員後はその遺族の家を一軒一軒訪問し葬儀にも列席した」と記されていました。父が生きて帰ったお陰で私たちは姉弟が生まれました。九月二十三日は父の二十三回目の命日です。



小耳にはさんだ いい話 (文責・靖) 《337》

三井親和(みついしんな)の書

ら発見された七mの「牛頭天王御祭禮」の書もその時に大間々で書いた可能性が高くなりました。「江戸に旋風・三井親和の書」(小松雅雄著)によると、親和(一七〇〇〜一七八二)は信州諏訪に生まれ、東都(江戸)深川を愛し続けた人でした。彼は、書道家であり武道家、特に弓術家としての名声も高かったといわれています。親和の書は江戸時代後期に一世を風靡し、大名から庶民までに熱狂的に支持され、彼の書は「親和染」や「親和織」として商品化されてきました。『二た所の三井で職出来上がり』(ふた所とは三井親和と三井越後屋呉服店のことで

牛頭天王御祭禮



親和が書いた文字を現在の三越の越後屋が染めて販売した」という川柳もあり、江戸の山王祭や神田祭、富岡八幡宮や諏訪大社の祭禮にも親和の職が掲げられていました。儒学者の林述斎や佐藤一斎も幼い頃に親和に書を学んだことがあり、述斎は「師匠は慎み深く、些事も無駄にしないという心がけに感じ入った」と話し、佐藤一斎には「少にして学べば即ち壮にして為すことあり。壮にして学べば即ち老いて

衰えず。老いて学べば即ち死して朽ちず」という名言が残されています。二百数十年前の親和の書が大間々で大切に保存されていることは江戸時代の大間々が文化的、経済的に高いレベルだったことの証でもあります。伝統の大間々祇園祭りで親和の職が見られることを願っています。

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百二十八号は令和五年十月一日(日)発行予定です。

♡ やっちゃんの似顔絵提供…ひさかさん